

1 増え続けている子どもたちの不登校

文部科学省では、全国の学校現場における児童生徒の問題行動等の実態把握を行い、その未然防止、早期発見・早期対応に、また、不登校児童生徒への適切な支援につなげています。



文科省 令和2年度「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」結果

<県内における不登校の実態（県教委義務教育課・高校教育課）>

■ 小・中学生の不登校児童生徒数の推移

不登校児童生徒数については、小学校・中学校ともに、平成25年度より増加しています。また、令和2年度において、全児童生徒数に占める不登校児童生徒数の割合は、小学校でおよそ1%、中学校でおよそ3.9%と、増加傾向にあります。

さらに、不登校児童生徒のうち90日以上欠席している児童生徒は、小学校でおよそ50%、中学校でおよそ60%となっており、未然防止に向けた取組の充実が求められています。

不登校の要因については、学校に係る状況、家庭に係る状況、本人に係る状況等が複合的に絡み合っていることが考えられます。不登校が続くことにより、学業や進路への新たな不安が生まれ、人間関係の不安が大きくなったりすることも、長期化の要因として考えられます。現在は不登校を問題行動として捉えず、一人一人の状況に応じた支援の充実が求められています。

■ 高校生の不登校生徒数の推移

令和2年度の不登校生徒数は705人であり、2年連続で減少しています。また、1,000人当たりの不登校生徒数は13.9人であり、2年連続で減少しています。

不登校の要因については、「無気力・不安」が最も多く210人であり、不登校生徒数の29.8%でした。「生活のリズムの乱れ、あそび、非行」が138人で、19.6%と2番目に多く、「入学、転編入学、進級時の不適応」が122人で、17.3%と3番目に多い割合でした。

不登校生徒のうち、毎年、一定数の生徒が中途退学に至っています。

県内の公立高校の中途退学者数の推移



県内の公立高校の平均規模（学年5クラス）の全生徒数は約600人です。
 最大規模の高校でも、学年8クラスで約960人になります。
 中途退学者の数は、決して少なくないと言えます。

<参考資料> 令和2年度「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」結果

令和2年度 県内の公立小中学校の長期欠席の状況

注) 国立・私立を除く人数

①理由別長期欠席児童生徒数

()内は令和元年度の人数

※1年間に30日以上登校しなかった児童生徒の理由別の生徒数

※「新型コロナウイルスの感染回避」は、新型コロナウイルスの感染を回避するため、本人又は保護者の意思で出席しない者、及び医療的ケア児や基礎疾患児で登校すべきでない」と校長が判断した者

※「その他」は「病気」「経済的理由」「不登校」のいずれにも該当しないか、欠席理由が複数あり、主たる理由が特定できない者

	病気	経済的理由	不登校	うち90日以上欠席			新型コロナウイルスの感染回避	その他	合計
				うち出席日数10日以上	うち出席日数0日	うち出席日数0日			
小学校	170 (202)	0 (0)	945 (772)	439 (391)	91 (76)	21 (20)	131 (-)	82 (64)	1328 (1038)
中学校	251 (138)	0 (0)	1933 (1836)	1171 (1135)	331 (296)	93 (85)	72 (-)	30 (13)	2286 (1987)
計	421 (340)	0 (0)	2878 (2608)	1610 (1526)	422 (372)	114 (105)	203 (-)	112 (77)	3614 (3025)

■ 指導の結果登校できるようになった児童生徒数〔不登校児童生徒数に占める割合〕

- ・小学校 271人〔29%〕 (162人〔21%〕) ()内は令和元年度
- ・中学校 570人〔29%〕 (432人〔24%〕)

■ 学校内外の専門家や機関等で相談・指導を受けた不登校児童生徒数

○学校内

- ・スクールカウンセラー等 1,083人〔38%〕 (1,105人〔42%〕)
- ・養護教諭による専門的な指導 545人〔19%〕 (544人〔21%〕)

○学校外

- ・教育支援センター（適応指導教室） 298人〔10%〕 (337人〔13%〕)
- ・病院・診療所 298人〔10%〕 (268人〔10%〕)

①理由別長期欠席生徒数 () 内は令和元年度の人数

※1年間に30日以上登校しなかった生徒の理由別の生徒数

※「新型コロナウイルスの感染回避」は、新型コロナウイルスの感染を回避するため、本人又は保護者の意思で出席しない者、及び医療的ケア児や基礎疾患児で登校すべきでないと校長が判断した者

※「その他」は「病気」「経済的理由」「不登校」のいずれにも該当しないが、欠席理由が複数あり、主たる理由が特定できない者

	病気	経済的理由	不登校	新型コロナウイルスの感染回避			その他	合計
				うち90日以上欠席	うち出席日数10日以下	うち出席0日		
高等学校	148 (93)	1 (1)	556 (710)	138 (115)	24 (29)	2 (5)	118 (-)	933 (995)

■ 指導の結果登校できるようになった生徒数〔不登校生徒数に占める割合〕() 内は令和元年度
286人〔51%〕 (306人〔43%〕)

■ 学校内外の専門家や機関等で相談・指導を受けた不登校生徒数
343人〔62%〕 (455人〔64%〕)

○学校内

- ・スクールカウンセラー等 200人〔36%〕 (257人〔36%〕)
- ・養護教諭による専門的な指導 126人〔23%〕 (193人〔27%〕)

○学校外

- ・病院、診療所 123人〔22%〕 (88人〔12%〕)

令和2年度「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」結果はこちら
https://www.pref.gunma.jp/houdou/x24g_00043.html

不登校の児童生徒に対して学校の内外で相談・指導が行われていますが、当事者の全員が支援を受けていない状況がわかります。また、高校生の場合には、不登校から中途退学してしまう人もいます。

私たちは、どのように当事者の支援に関わっていったらいいのか、真剣に考えていく必要があります。不登校を経験した本人や親御さんたちのメッセージを参考にしてください。

<不登校を経験した本人、親たちの声>

意見交換「私の不登校経験」

～ 広域通信制高校3年生たちが、支援者に送るメッセージ ～

Q 不登校になったのはどんなことがきっかけでしたか？

<Aさん：中学2年で不登校、進学先として現校を選択した女生徒>

- ・部活動の顧問がものすごく厳しかった。小規模校だったので同級生が少なくて相談する相手もいなかった。先生に言われたことをやろうとしたけど、だんだん苦しくなって休むようになった。

<Bさん：高校1年で不登校、半年後に現校に転学した男生徒>

- ・何が原因で学校を休むようになったのか今でもよく分からない。小学時代、提出物の忘れ物が多く先生に

いつも注意されていた。小学5年時に転校してきたので友人も少なかった気がする。

中学1年の時に4ヶ月ほど不登校になったがいつの間にか学校に行けるようになった。母親の期待もあって進学校に入学したが半年後には不登校になってしまった。

＜Cさん：中学1年で不登校、半年後から別室登校、進学先として現校を選択した女生徒＞

- ・ 部活動でのいじめがきっかけだった。学校を休んでいる時に担任から別室登校を勧められ学校に行くようになったが、休み時間などに同級生たちが教室に入ってきて、いつもいびられていた。

Q 学校を休んでいる時にどんなことを考えていましたか？

- C 他の子とはうまく付き合えたけど、部活の同級生とは波長が合わず自分には上手くできなかった。耐えられなくなって2～3ヶ月全く学校に行かなかった。親に無理矢理連れて行かれることもあった。制服を着るとお腹が痛くなり、母からは何ともないから学校に行きなさいと言われ続けていた。
- A 家でずっとひきこもっていた。一人にいる時に自分を責めて自傷行為を繰り返したこともあった。心療内科のカウンセラーに話を聞いてもらったこともあった。
- B 中学の時の不登校は担任でもあった部活顧問の厳しい指導に耐えられなかったから。部活を辞めてから周りの人が気を遣うようになった。学校に戻りたい気持ちもあり何かやりたいと思っていた。合唱祭で指揮者を名乗り出た。同級生の反感もあったけど自分の好きなことをやって中学生生活を乗り切った気がする。高校は進学校で成績も上位だったけど、頑張り過ぎて夜も眠れないようになり学校を休むようになった。学校に行けなくなって担任から「進学しないと人生も終わりだ」とも言われた。公園のベンチに一人でも何一つおもしろいことがなくて自殺を考えたこともあった。今までの自分を否定された気がして、今まで周りの期待に応えようとしていた自分にくたびれてしまった。
- A 学校に行けなくなると朝が来るのがしんどかった。夜も寝られないから起きられなかった。親が仕事に出かけるとゴールデンタイム、好きなことができた。親と一緒にいるのがしんどかった。
- B 親からは高校に行かなければいけないと言われたし自分でもそう思っていた。でも、何にも考えられなかった。この先どうでもいいと思っていた。勉強もしていなかったから人生終わりと思った。

Q どんなことがきっかけで一歩前に踏み出すことができましたか？

- C 保健室登校をしていたけど他の生徒も出入りするの嫌だった。別室登校は一人だったので好きなことをやっていた。職員室が近かったので覗きにくくいつも誰かいて話し相手になってくれた。学校の中に自分の居場所が見つかったような気がして、それから学校に行けるようになった。
- B 母子家庭なのでいつも母親の愚痴を聞かされていた。だから自分自身の悩みを自分の中にため込んでいた気がする。学校から転学を勧められて自宅からも近い現在の高校を選んだ。人と比べられることにストレスを感じていたけど、自分は自分のままでいいと思えるようになってから学校に行けるようになった。音楽を学びたいので大学に進学したいと思っている。
- A 学校には行けなかったけど習い事は続けていた。第2の親みたいな人で月2回のペースでいつも話を聞いてもらっていた。自分の言いたいことが自由に言えた。中3の時に受験をどうしようかと思ったけど、高校に対する具体的なイメージは全くなかった。担任に通信制を勧められた。入試が書類選考だけだったので良かった。今は、中学の時に職場体験をした保育士になりたいと思っている。
- C 学校でのカウンセリングが大きかったかな。それまでは母親と対決ばかりしていた。母親からは毎朝学校に休むことを連絡するのが辛いと言われていた。祖父母の家で生活するようになって自分の気持ちが冷静になった気がする。カウンセラーの先生が母親に働きかけてくれてから親子関係も改善された。両親とも不登校の経験はなく、妹や弟が多く長女ということもあったからかな。塾には行けていたので先生が親身になって進学先を探してくれた。親は制服のある高校に行きたいと

言っていたので、今の学校に行けるようになって本当に良かったと周りから言ってもらえるようになった。行ける学校があると思えるようになって救われた気がした。

■ 支援者（先生など）の皆さんへ伝えたいこと

- ・ 先生がいっぱい、いっぱいなのはわかるけど寄り添って話を全部聞いて欲しい。
- ・ 話を聞いてもらっても「ふうんそうなんだ」で終わってしまう。聞き流されてしまう気がした。
- ・ 同じパターンで対応して欲しくない。いろんな目線で受け止めて欲しい。
- ・ 担任でなくても、別室登校の先生、SC や保健室の先生、事務の先生、栄養士さん、誰でもいいから、日常的な会話だと話しやすくなるから相手をして欲しい。
- ・ 家庭訪問に来て、「今日、教室に行く？」「明日、学校に行く？」と言わないで欲しい。しんどいから。パジャマで会えないから制服を着ている。あまり誘わないで欲しい。「行ってみようかな」と思える時に声をかけて欲しい。
- ・ 手紙のやり取りなど文字であると気持ちを伝えやすい。プレッシャーになる場合もあるので、その子の状況に合わせて対応を考えて欲しい。

■ 親に一言、伝えたいこと

- ・ 迷惑をかけてしまった。感謝している。
- ・ 理解してくれて嬉しかった。朝、起こしに来なくなった。朝が辛かったから。
- ・ 仕事が休みの時に外に誘ってくれた。小さい頃に戻った気がした。親子だけが嬉しかった。

□ 生徒たちの話を聞いて感じたこと（わせがく高等学校教頭） 丸山昌利さん

今回生徒たちの話を聞いていて、子どもが学校に行けないという状態になった時に、周りの大人たちが子どもにどう寄り添いながら、働きかけをしていくのかが、不登校の状況から自立の方向に動き出せる気持ちになっていけるために本当に大切だということを実感しました。

不登校状態になっている子は、大人の支援を必要としています。また、安心して自分が自分らしく居られる場所を求めています。自分の子どもが、その支援が欲しいと SOS を出している時に保護者として寄り添うことが必要となりますが、おそらく子どもの将来を悲観して、不安が強くなってしまい、難しいことだと思います。そのために保護者にも寄り添ってもらう支援者の存在が必要です。その時に支援をする方の存在を保護者の方が知っていることがとても大切です。

支援者は子どもを中心とした同心円の中で支援者同士が連携をして関わっていくことが大切です。

また、その同心円が2重、3重となっていくことも大切です。

その同心円が増えていくために、この「支援者ガイドブック」が活用されていくことを願っています。

座談会「我が子の不登校と向き合って」

～ 誰もが同じようなことで苦しんでいる。だから今、皆さんへ伝えたい ～

Q お子さんが学校に行かなくなったときにどんなことに困りましたか？

<子どもに対して>

- ・ 家から引っ張り出して登校させようと思いました。（誰もが経験する親子の葛藤）
- ・ 近所の目が気になりました。
- ・ 半年くらい登校班の子どもたちに「今日もいけないの」と伝え続けてしんどかったです。
- ・ 子どもが苦しんでポロポロになっていく様子を見るのが本当に辛かったです。

- ・ この子は「このままどうなっちゃうのだろうか」という漠然とした不安を抱えていました。
- ・ このままで高校に行けるのだろうか、先のことを考えるととても不安でした。
- ・ 家族とは普通に話ができるようになったが、同年代の子どもと付き合えないことが心配でした。
- ・ 学校に行けずに苦しんでいる本人の気持ちをどう聞いてあげたらいいのか、ずっと悩んでいました。
- ・ 学校に行けない理由は今でもわからないでいます。

<自分自身に対して>

- ・ 学校に行くのが当たり前で、それができない子どもに育ててしまったと自分を攻めました。
- ・ 朝、顔を見て今日は無理だなと感じると「学校に行かなくてもいいよ」と言えるようになりました。すると、少しずつ顔の表情が明るくなってきました。
- ・ 共働きで下にも子どもがいたので、本人に対して「しっかりして欲しい」と思い、いつも「どうする?」「どうしたいの?」と、すぐに答えを求めている気がします。
最近、元気を取り戻した我が子から「あの時、お母さんはこう言ったよね」と言われることがあります。親の言ったことをよく覚えているんだな、苦しめていたんだなと反省しています。
- ・ 子どもが学校に行けないのはお前のせいだと、夫から攻められた。
- ・ 中学入学と同時に先生方による勉強のプレッシャーがあり勉強をさせないといけなと思い込み、厳しくし過ぎたかもしれません。「勉強をしたくないから行きたくない」と言われました。
- ・ 高校に行くのは当たり前、進学校を目指すのは当たり前という風潮に疑問を感じませんでした。
- ・ 家にずっと一緒にいて、子どものことが心配で気が気でなかったです。仕事をしないと生活が苦しくなってきたので外に出るようになると、一人で家の中のことをするようになりました。夕御飯の支度をしていると自分から話しかけて来るようになりました。親子の距離感も必要だなと感じています。

<学校に対して>

- ・ 「登校してください」と言われても、それができないから苦しいのに分かってもらえませんでした。
- ・ 「人生でこういうこと（不登校）も起こるよね」と、先生に言って欲しかったです。
- ・ 休んでいる時に課題が出されてもそれが出来ないで、余計に追い込まれている感じがしました。
- ・ 車から降りられない子ども。先生が顔を見に来て「(見られたから)出席にするね」と言われました。そんなに出席日数が大事なのかと誤ってしまいました。
- ・ 先生の暴言。表情のない先生。だから行きたくないと子どもに言われました。
- ・ 先生が家庭訪問に来てくれても、本人は家の中に隠れて出て来ないことが多いのですが、玄関先での話の様子をのぞき見していることが分かりました。いつも先生が「〇〇さん、今、学校でこんなことをやっているんだよ」と、手紙を書いて下さることが気になっているのかなと思いました。

<その他>

- ・ 教育相談機関に行っただけで、相談をしてもどうしていいか分からないまま終わりました。
- ・ 精神科の思春期外来を受診、処方箋を出した薬局で「その年齢でこの量を飲ませていいのか」と薬剤師が心配して医師に問い合わせしてくれました。
- ・ 中学で不登校でも、その先に通信制やサポート校があることを知っていれば、親子でもっと気持ちが楽だったのと思います。
- ・ 学校への行き渋り、不登校になったときに常設ですぐに相談に行ける場所があればいいのと思います。いつでも話を聞いてくれる学校以外の人がいいなと思います。

Q ひきこもる本人が、どんなことがきっかけで動き出すことができましたか？

- ・ 定時制、通信制という進学先を知ったことで希望を持てたようでした。

- ・ オンラインでしたが支援者の方に話を聞いてもらえて良かったです。
学校に行けないでいる自分を責め続けていたけれど、「それ、いいね」と言われて気が楽になったようでした。高校の学校説明会の予約を入れてもずっと行けないでいました。
- ・ 活発な子だったのに、死にたいと暴れたり、頭が働かないと訴えたりしました。
周りから言われていることが理解できないと言いつけていました。
中学2年の時に不登校経験を持つ大人の話が聞けるイベントがあり参加しました。
いろいろな人が社会人になって生きていることを知ったことが大きな影響を与えたようです。
学校以外の場所で「生きる意味」を知り、自分がこうなりたいと初めて思ったと話してくれました。

Q 「不登校支援」、こうだったらいいのという要望はありますか？

- ・ 子どもの興味があることに答えてくれる人に繋がること。「こういうのをやりたい」ということが見つかった時の人との繋がり。常設の相談窓口で知識を持った人がいてくれるといいですね。
- ・ ざっくばらんに話ができて不安感が無くせる居心地がいい場所が欲しいですね。
- ・ 子どもの支援は前橋や高崎に集中していて、それ以外の地域にない格差を感じています。
- ・ 子どもとうまが合う子と出会える場所がないかなと思います。
- ・ 「(登校は) 今日ムリだったら明日でもいいよ」と言ってくれる場所。
学校もそうあって欲しい。行きたくないと言っている子を無理に連れ出そうとすること。
「連れて来てください」と言われると、できないことが本当に辛いです。
- ・ 少し発達障がいがあって人とのコミュニケーションが難しい。同じような悩みを持つ子どもと交流を持ちたいと思っているのですが、どこに相談したら良いか分からないでいます。

■ 不登校の子どもを持つ親から伝えたいこと

- ・ 親同士の繋がりが欲しい、同じ体験をしている人と話したいです。
- ・ 気軽に行ける相談窓口があれば、そこで出会えるのと思います。
- ・ 情報を共有したい。学校の先生との話はすれ違えばかり。子どものためにこうしたいという思いが叶わないうちです。親がムリなことを言っているのだろうかと考え込んでしまいます。
- ・ 出入りしやすい相談できる場所を作ってもらいたい。
先生以外で話を聞いてくれる人が常駐している場所が欲しいです。
- ・ 本人が「今日は行けそう」と制服に着替えるのですが、「やっぱり無理」と動きが止まってしまうことがありました。そんな時、「やっぱり駄目か」と考えないように、あらかじめ「これなら出来る、出来た」と思えるように選択肢を一緒に考えておくように心がけました。

□ 皆さんの話を聞いて感じたこと 「不登校の子どもと向き合う親の会」代表 湯浅やよいさん

出席日数を考えるばかりに肝心なことが欠けているのではないかと感じました。

子ども自身が「生きる」という前向きな気持ちになれることが先決です。

学校に行けないでいることに、なぜいつまでも「不」という表現を使うのでしょうか。

「学校に行けないこともあるよね」と、先生を含めた周囲の大人たちが温かい眼差しで見つめるだけで子どもは自分自身を責めることはなくなります。

学校に行けなくても、その後に「学びの場」に戻ったり、自分の人生を切り開いたりしていける子はいるという実績がありながら、そこに目を向けないのはなぜでしょうか。

不登校の相談に携わるすべての皆さん、このような状況に追い込まれた親御さんの言葉にぜひ耳を傾けてください。親御さんたちが抱えた不安を解消することが、子どもたちの明日に繋がると信じています。

支援に携わる皆さんのお力をぜひ貸してください。